

問1 日本銀行は、私たちの生活に関わる一般の銀行とは異なる特別な役割を担っています。日本銀行が、一般の銀行に対して資金の貸し出しや預金の受け入れを行う役割を何と呼びますか。（2024年 岩手県公立入試 類似）

1. 発券銀行 2. 政府の銀行 3. 銀行の銀行 4. 市中銀行

問2 日本銀行が「発券銀行」という役割を持つことで、経済に対してどのような影響を及ぼすとされていますか。その仕組みとして最も適切な説明を選びなさい。（2024年 岩手県公立入試 類似）

1. 日本で唯一、紙幣を発行する権限を持ち、その流通量を調整することで物価の安定を図る。 2. 政府が発行する硬貨の製造量を決定し、国の予算を補う役割を果たす。 3. 各銀行が自由に紙幣を発行できるように許可を与え、市場の競争を促進する。 4. 企業の株券を買い取ることで、不況時に企業の倒産を直接的に防ぐ。

問3 為替レートが円安方向に変動した際、日本産の梨などを海外へ輸出する企業の動向や、国際市場における日本製品の状況として最も適切な説明はどれですか。（2026年 鳥取公立入試 類似）

1. 海外での販売価格を安く設定できるようになるため、価格競争力が高まり、輸出に有利にはたらく 2. 海外での販売価格を高く設定しなければ利益が出なくなるため、価格競争力が低下し、輸出に不利にはたらく 3. 輸出した先で得た外貨を日本円に換える際、受け取れる円の額が少なくなるため、企業の収益が大幅に悪化する 4. 日本国内での生産コストが急激に下がるため、輸出価格を変動させなくても国際的なシェアが独占状態になる

問4 日本銀行は、私たち一般の個人や企業と直接取引を行うことはありませんが、三菱UFJ銀行や地方銀行などの民間金融機関を相手に、資金の貸し出しや預金の受け入れを行っています。このような日本銀行の役割を何と呼びますか。（2020年 埼玉県公立入試 類似）

1. 銀行の銀行 2. 政府の銀行 3. 発券銀行 4. 管理通貨制度

問5 日本銀行が「買いオペレーション」を実施した際に生じる、経済への影響についての説明として、背景や因果関係が正しいものはどれですか。（2026年 鳥取公立入試 類似）

1. 市場の資金供給量が増加し、金利が低下することで、企業の設備投資や個人の住宅購入が促される。 2. 市場の資金供給量が減少し、金利が上昇することで、物価の上昇を抑えてイン플레이ションを防ぐ。 3. 民間銀行の資金が不足し、金利が上昇することで、家計が貯蓄を増やし消費が抑制される。 4. 通貨の流通量が制限され、金利が低下することで、円の価値が急激に高まり輸出産業が活性化される。

問6 現代の経済における資金調達の仕組みにおいて、「直接金融」の説明として最も適切なものはどれですか。（2021年 岐阜公立入試 類似）

1. 企業が証券市場を通じて株式や債券を発行し、投資家から資金を調達する仕組み 2. 銀行などの金融機関が預金者から集めた資金を、企業や個人に貸し出す仕組み 3. 日本銀行が市中の資金量を調節するために、国債などを売買する仕組み 4. 家計から出された預金が、金融機関の貸し出しを通じて社会全体の通貨量を増やす仕組み

問7 日本経済において、物価が持続的に下落するデフレーションが進行している時期の経済状況や政策について述べたものとして、正しい記述はどれですか。（2017年 茨城県公立入試 類似）

1. 物価の下落により貨幣の価値が相対的に上がるが、企業の収益悪化や賃金の低下を招き、さらなる景気の冷え込みにつながりやすい。 2. 需要が供給を大幅に上回っているために物価が下落しており、日本銀行は通貨量を減らすために「売りオペレーション」を実施する。 3. 物価の下落は消費者の購買力を高めて景気を浮揚させるため、政府は増税を行って市場の通貨量を回収し、経済の安定を図る。 4. 通貨の価値が下がり続ける現象であるため、日本銀行は公開市場操作を通じて市場の通貨量を増やすことで、物価の下落を食い止める。

問8 景気動向に基づいた日本銀行の金融政策の表において、「不景気の際の操作」として示される内容とその目的の組み合わせとして、正しいものはどれですか。（2020年 福島県公立入試 類似）

1. 日本銀行が国債を買い入れる。これにより銀行の資金が増え、金利が低下して消費や投資が刺激される。 2. 日本銀行が国債を買い入れる。これにより銀行の資金が減り、物価の上昇を抑えて家計を助ける。 3. 日本銀行が国債を売り出す。これにより市場の通貨が増え、公共事業のための資金が確保される。 4. 日本銀行が国債を売り出す。これにより金利が上昇し、国民の貯蓄意欲を高めて将来の備えを増やす。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 銀行の銀行	日本銀行は一般の企業や個人とは直接取引を行わず、銀行などの金融機関を相手に資金を融通します。この役割を「銀行の銀行」と呼び、金融システムの安定を維持しています。一方、紙幣を発行する役割は「発券銀行」、国庫金の管理などを行う役割は「政府の銀行」と呼ばれます。
問2	答え 1 日本で唯一、紙幣を発行する権限を持ち、その流通量を調整することで物価の安定を図る。	日本銀行は国内で唯一、日本銀行券（紙幣）を発行できる権限を持っています。この権限を通じて、世の中に流通する通貨の量を調節する「金融政策」を行い、物価が急激に上がったたり下がったりしないようにコントロールする重要な役割を担っています。
問3	答え 1 海外での販売価格を安く設定できるようになるため、価格競争力が高まり、輸出に有利にはたらく	円安になると、海外でドル建ての販売価格を下げても、それを円に換算した際の受け取り額を維持、あるいは増やすことが可能になります。これにより、海外市場において他国製品よりも安く販売してシェアを広げたり、同じ価格で売ってより多くの円の利益を得たりできるため、一般的に輸出産業にとっては有利な状況となります。
問4	答え 1 銀行の銀行	日本銀行は、一般の銀行（民間金融機関）のみを取引相手として、資金の貸し出しや預金の受け入れを行う役割を担っています。私たちは直接日本銀行に口座を作ることはできず、民間金融機関を通じて間接的にその恩恵を受けています。この仕組みは、金融システム全体の安定を維持するために重要な機能です。
問5	答え 1 市場の資金供給量が増加し、金利が低下することで、企業の設備投資や個人の住宅購入が促される。	日本銀行が買いオペレーションを行うと、民間銀行が持つ資金に余裕が生まれます。資金の供給が増えると、お金を借りる際のコストである「金利」が低下します。金利が下がれば、企業は新しい工場を建てるための資金を借りやすくなり、個人もローンを組んで住宅を買いやすくなるため、社会全体の景気を向上させる要因となります。
問6	答え 1 企業が証券市場を通じて株式や債券を発行し、投資家から資金を調達する仕組み	直接金融は、資金の出し手（投資家）と借り手（企業など）が、証券市場を介して直接結びつくのが特徴です。一方、銀行が間に入って預金者の資金を貸し出す形態は「間接金融」と呼ばれ、日本の資金調達において長く中心的な役割を果たしてきました。
問7	答え 1 物価の下落により貨幣の価値が相対的に上がるが、企業の収益悪化や賃金の低下を招き、さらなる景気の冷え込みにつながりやすい。	デフレーションの状況下では、物価が下がるため貨幣の価値は相対的に高まりますが、一方で企業の売上減少や在庫の増加を招きます。その結果、労働者の賃金が下がったり失業者が増えたりして消費がさらに落ち込む「デフレスパイラル」という悪循環に陥るリスクがあります。この不況を打開するため、日本銀行は公開市場操作によって市場に資金を供給し、通貨量を増やす金融緩和政策をとるのが一般的です。
問8	答え 1 日本銀行が国債を買い入れる。これにより銀行の資金が増え、金利が低下して消費や投資が刺激される。	不景気の際に行われる買いオペレーションの目的は、民間銀行が持つ資金を増やし、金利を低下させることにあります。金利が下がれば、企業は設備投資のための資金を借りやすくなり、個人も住宅ローンなどを組みやすくなるため、社会全体の消費や投資が活発になり、景気の回復が期待されます。